

## 医療介護実践者にとっての地域包括ケアシステム

—認識調査から導く実践の道標—

○ 社会医療法人関東会 高橋勝 (会員番号 009535)

キーワード：地域包括ケアシステム、実践価値、多職種連携

## 1. 研究目的

「地域包括ケアシステムとは我々実践者にとって一体何なのか。何を以て、何を実現すべきなのか」

本研究の出発点は実践現場の中で長らく抱き続けたこの問いにある。

言うまでもなく現在の医療・介護領域は地域包括ケアシステムの重要な機能として組み込まれている。政府はその実行について、自治会、老人会、ボランティア等地域住民も含まれるものの、その大部分を医療・介護専門職と想定しており実質の担い手となっていることは間違いないが、非常に観念的あり、具体性を欠く。何を目指し、実施すべきなのか。

本研究は自らの問いに対し、医師や看護師、理学療法士や作業療法士、介護福祉士、ソーシャルワーカー、介護支援専門員等々、地域包括ケアシステムに関与する「医療・介護領域の専門職等（以下、実践者）」を対象に、実践者達が多様化、複雑化するその実践の中で「何を実現しようとしているか」を帰納法的に整理検証、地域包括ケアシステムを有機的な体系とすることを目的とし、その実態の中から実践の為の原理を探る。本発表では研究過程の一部、地域包括ケアシステムに対する実践者の認識調査の結果を報告する。

## 2. 研究の視点および方法

政策、専門職要請課程において積極的に扱われているにも関わらず、地域包括ケアシステムの理解は、そのイメージの曖昧さから実践者の中で共通していないことを確認する為、以下の調査を実施した。

## 1 調査方法

以下の内容で所属先の12の職種からなる管理職群44名（平均年齢：44.95歳、職種としての平均経験年数：17.29年）に対し、地域包括ケアシステムの理解を図る目的で調査を実施した。

i) 所定の様式を用い、a) 年齢、b) 職種、c) その職種の経験年数、d) 地域包括ケアシステムについて50字以内で説明。調査様式は事前に配布せず、5分間で記入、回収。

ii) i) -d) の内容について

① 地域包括ケアは誰に対するシステムであると『理解』されているか？

- ② 地域包括ケアシステムは誰が行うシステムであると『理解』されているか？
- ③ 地域包括ケアシステムにおいて支援者はどのようなアクションが必要と『理解』されているか？
- ④ 地域包括ケアシステムの目的は何であると『理解』されているか？

以上、4つについて定性的コーディングを行い分類する。

### 3. 倫理的配慮

所属先の研究倫理委員会が定めた「研究倫理に関するガイドライン」の則り実施した。日本社会福祉学会の倫理指針を遵守した。

### 4. 研究結果

①の「対象」については43%が患者、利用者等ケア対象者とマイクロレベルであるのに対し、25%が地域、住民のメゾレベルであるとであると理解されている。②の「支援者」については医療、介護、行政等領域単位が32%、専門職等人材が23%と比較的多く回答されたが統一されていない。③の「アクション」については連携、協働が54%と約半数、④の「目的」については生活に対する個別支援が75%と多数を占める。

本調査の結果から「誰に対し（対象）」、「誰が（支援者）」、「どの様に（アクション）」については共通していないことが確認できる。

政府が提唱する地域包括ケアシステムの定義の曖昧さ、解り難さが共通性を欠く結果に結び付いていると考える。

その様な中で④の「目的」については個別的支援が多数を占める。中でも「生活」というキーワードについて職種を限定せず多数記載が見受けられた。

### 5. 考察

調査結果から、そもそも「生活」とは何か？という疑問に辿りつく。一般的には非常に広く定義されている。「生存」「生きる」等、生命活動的な意味合いの定義や「生計」等、経済活動的な意味合いに定義されている。地域包括ケアシステム実践に関わる専門職にとって、「生活」とは何を指すのか？

冒頭に問うた「地域包括ケアシステムとは我々実践者にとって一体何なのか。何を以て、何を実現すべきなのか」に対し、実践者が地域包括ケアシステムにおける実践の中から見出した「生活」の本質を本研究の次の段階とし解明、検証したい。